

宮古島を来襲した台風0314号について(2) -被害の特性-

○丸山 敏・河井宏允・奥田泰雄・林 泰一

1. はじめに

2003年9月10日から11日にかけて宮古島を襲った台風14号による被害の調査を行った。調査は、台風通過直後の9月13日から16日にかけてと、約2ヶ月後の11月4日から8日の2回にわたって行われた。台風の気象学的な性質は(1)に示したとおりであり、その進路が宮古島を通過後、北上して韓国に向かったこともあり、日本における被害は宮古島に集中した。中心が宮古島の近くを通過した際には、宮古島地方気象台で最大瞬間風速74.1m/sが記録され、多くの被害が発生した。ここでは、その被害の特性および発生後の被害の復興状況などについて発表する。



写真1 風力発電用風車の破損と倒壊

2. 調査結果の概要

人的被害は死者1人、重傷1人、負傷者96人(10月15日、沖縄県庁統計)を数え、建築物、構造物や農作物にも多くの被害を出した。また、電力、電話、水道などのライフラインも寸断され、島民の日常生活に支障をきたした。とくに、多数の電柱の倒壊、損傷により交通障害が発生し、直後の避難、救援、復旧活動が阻害された。住宅については、窓ガラスの破損、体育館、公民館などの公共建物や、工場、倉庫などについては屋根材の飛散が多数みられた。また、宮古島内にある7基の風力発電用風車は全て破損し、うち、3基が倒壊した。



写真2 バスの横転



写真3 電柱の倒壊



写真4 体育館の屋根の破損